

は高さが 15~18 cm, 成熟葉および未成熟葉からなっていたが, 当時は無性芽は何れの葉にもみられなかつた。

移植地は静岡市大岩であり, 栽培方法はこの 4 株と一緒に 5 寸鉢 1 個へ, 小砂利と砂と壤土とを混合したものに植込み, 竹すだれでおおいをして直射光をさけ, 灌水はおこたらなかつたが, 施肥はしなかつた。

この 4 株は 11 月から翌年 1 月にかけて全部落葉し, 外観上, 枯死状態を呈した。

移植後落葉前までには, 勿論無性芽はでなかつた。

ところが, 昨春 (1958 年) になって, 4 株は新葉をだし, 9 月下旬現在, これらの高さは 13 cm 以下である。このうち 2 株 (A 株および B 株とする) は無性芽を形成している。A 株は 2 葉にこれをつけ, 着生位置は葉の先端から各 12 mm および 11 mm, その大きさは 2 mm と 5 mm であり, B 株は 3 葉にこれをつけ, 着生位置は葉の先端から各 19 mm, 7 mm および 9 mm, その大きさは 1 mm~2 mm である。

*Asplenium Trichomanes* L. has hitherto been believed not to produce the gemma on fronds. Recently, however, the author found out the gemmiferous fronds of it in Mikawa, Toutoumi and Suruga Provinces. The explanations of these specimens are presented in Table 1 and Fig. 1.

The author also transplanted four fern stocks with no gemma together into one pot. After one year's culture, he observed that two of them produced one gemma each on the rachis of the frond.

(静岡大学教育学部生物学教室)

# ○ 高等植物分布資料 (7) (補正) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (7)

○ 下北半島のクリイロスゲとコホタルイ 標記 2 種が青森県下北半島に新産である由を本誌 33: 314 (Oct. 1958) に小山鉄夫氏が報ぜられた。同時に報ぜられたカヤツリスゲは小生に未知のものであるが, 上の両品は既に小著 “A Check-list of Vascular Plants of Shimokita Peninsula” (資源研彙報 No. 46-47, 55 頁, March 1958) に記してある。小山氏が引用された小著 2 篇は 1956, 57 年発行のものであつたが, 文献引用の際に出版年代を省略するのは 30 年位前までの慣用であり, 今日では通常これを明確に引用するようである。従つてクリイロスゲ (荒沼で自身採集) とコホタルイの名は当然同氏の目には入らなかつた訳である。但し小生が挙げたコホタルイは小山氏の教示によるものであつて, 其の旨は明記してある。従つて其の産地の報知だけが有価値となる。

(水島正美)